

盛岡北上川の白鳥について

澤 田 雪 野

1989年3月10日、暖冬といわれているのに、前夜からの雪が4cm積もった。最低気温水点下2.2度。15日は暖かく9.9度で天気は快晴である。午前10時頃、北上川に30羽程のオオハクチョウとコハクチョウ1羽が飛来し、3月18日渡去した。そのコハクチョウは単独行動をとり、黒嘴にかすかな黄色の部分がある。北上市のアメリカコハクチョウとは別個体と調査の結果分かり「もりおかクロ」(写真1)と命名した。

3月23日同じ場所にオオハクチョウの面相した小型ハクチョウが午前10時頃飛来した。このハクチョウは薬品の公害か、病的なものであろうかは不明であるが、非常に元気がよくオオハクチョウ、コハクチョウの間をスイスイ泳いでいた。そのハクチョウの特長は次の通りである。

特長

1. オオハクチョウの3分の2位の大きさ。
2. 頭部、後頸、前頸及び胸側とも黒緑色。
3. 黒緑色部は皮膚であり羽毛がない。
4. 上嘴と額の元部に5、6本の羽軸が立っていた。
5. 目の色は濁赤色で周囲は赤黄色の縁どりがある。
6. 耳は水中採じ(餌)する水鳥らしからぬ穴がまる裸である。
7. 跗しよ、足、足指ともまっ黒である。

このハクチョウを「もりおかクビクロ」(写真2)と命名したが、午後5時頃渡去した。渡りのコースが分かる目印が付いているので報告いたします。

「事務局註一同一個体と思われるハクチョウ(写真3)を宮城県増森彦介さんが迫川で観察した報告がありました。」

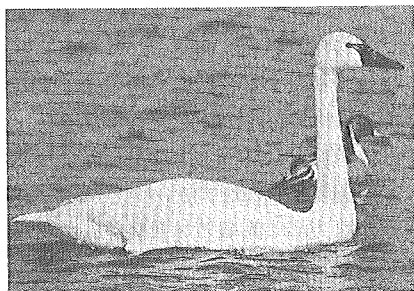


写真1 もりおかクロ

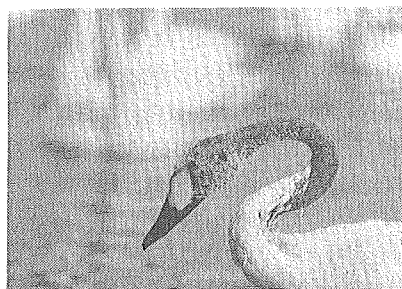


写真2 もりおかクビクロ

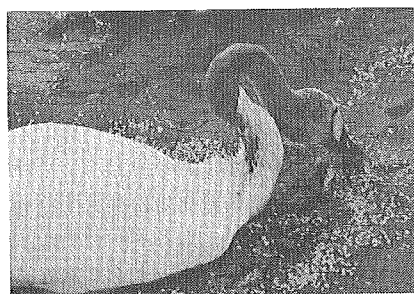


写真3 増森彦介氏撮影